（案）

令和3年　月　日

和泉市長　辻　宏康　様

和泉市ごみ減量等推進審議会

会長　中野　加都子

第５次和泉市一般廃棄物処理基本計画（素案）について（答申）

令和２年１２月２１日付け和泉生第１８０７号で諮問のあった「第５次和泉市一般廃棄物処理基本計画（素案）」について、別添のとおり答申します。

今後、計画策定に当たっては本答申を十分尊重されるとともに、下記の事項に十分配慮され、計画を推進されたい。

記

一般廃棄物処理基本計画は、長期的な視点から一般廃棄物処理を行っていくための計画であり、和泉市におけるごみ処理及び生活排水処理の指針となるものです。

当審議会では、高齢化、IT化、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の実現、また新型コロナウィルス感染拡大など国際的な動向を踏まえ、廃棄物の発生抑制や再利用の推進等廃棄物を適正に処理することをめざし、専門的な見地や市民としての視点のもと、パブリックコメント制度における幅広い市民等の意見を踏まえ、慎重に審議を諮ってまいりました。

今後、一般廃棄物処理行政の推進にあたっては、循環型社会の形成に資するため、市にあっては、本計画に掲げる「ごみゼロ社会への挑戦」の基本理念をしっかりと携え、基本方針に沿った取組を図り、本計画を実効性のあるものとするため、特に別紙事項については、審議会における主な意見等に十分配慮され、積極的に計画内容の実現を図られるよう要望いたします。

別紙事項

１.プラスチックごみ問題と食品ロスについて

* 1. 「いずみプラスチックごみゼロ宣言」（令和元年１０月１０日発出）について、「ごみの分別・適正処理」、「マイバックの利用」、「使い捨てプラスチック製品の代替製品の利用」の具体的な取組みを推進し、市民から理解が得やすく、市民自らの「行動」につながる施策を積極的に行うこと。
  2. 食品ロスについて、「ごみダイエット作戦！」の具体的な指標のひとつとして、「生ごみの水切り」、「紙ごみの分別」、「食品ロスの削減」を広報やチラシ、出前講座、イベントなどによって、市民へ繰り返し啓発し、市民意識の高揚を図り、ごみ発生抑制意識を高めるよう努めること。

２.自然災害等に発生する災害ごみ処理体制について

　　令和３年度策定予定の「災害廃棄物処理基本計画」により有事においても適正な廃棄物処理が迅速に行えるよう収集・運搬体制等を明文化し、実効性の高い計画の策定にあたること。

３. リユース行動の浸透に伴い、行政が主導で行う「リサイクルプラザ彩生館」は廃止し、市民自らが３Ｒへの関心を深め、SNSの活用や民間事業者の店舗活用などを更なる３Ｒの普及に努めること。

４. 生活排水処理について

公共下水道の整備を終了した区域においては、下水道への接続を推進するとともに、それ以外の区域においては、浄化槽への円滑な転換が進むよう、また、維持管理が適切に行われるよう、地域住民に対して十分な啓発を行うこと。

５.その他

　フードドライブ、高齢者等のごみ出し支援策などの制度設計は、総合的な見地から、慎重かつ丁寧に横断的な取組みを行い、市民、事業所、行政が公民協働による一体的な取組みになるよう、また、環境負荷の低減につながるよう施策推進に努めること。

以上